

## 2003 年度 委員会活動成果報告

( 2004 年 3 月 31 日作成 )

委員会名	材料施工分野における環境問題検討小委員会	主 査 名：真鍋恒博
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工本委員会	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	JASS 等における環境配慮事項の規定の基本方針に関する「技術基準」の策定およびその公刊。	
委員構成 (委員名(所属))	主査:真鍋恒博(東京理科大学)、幹事:名取発(同)、阿部道彦(工学院大学)、井戸川純子(建築研究所)、菊池雅史(明治大学)、古賀一八(長谷工コーポレーション)、近藤照夫(ものづくり大学)、清水市郎(建材試験センター)、坪内信朗(竹中工務店)、榆木堯(ベターリビング)、本橋健司(建築研究所)、室英治(元委員:竹中工務店)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2 ~ 3 ヶ月に 1 回のペースで、毎回数名の出席で開催して来た。大会研究協議会開催後は、その事後処理機能となったが、今般、最終成果物を J A S S 1 の付属書などの形(形式は未定)で刊行することとなり、委員会廃止後も実質作業を継続しているなど、活動は積極的である。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>材料施工分野における環境問題への対応の現状や諸般の周辺状況について幅広く資料収集して勉強会を行い、この委員会で行うべき内容について検討した。その結果、材料施工委員会の主たる成果物である「日本建築学会建築工事標準仕様書」に於いても、今後は環境問題への対応に言及せざるをえない状況であり、この委員会でも J A S S に環境対応に関する条項をいかに取入れるべきかについて検討することとした。</p> <p>その成果として、全 J A S S に共通のレベルの内容として、J A S S 執筆に於ける環境問題対応の基本方針の素案をまとめ、「技術基準」の形式に纏めた。</p> <p>その成果物は日本建築学会大会の研究協議会に於いて公表し、パネラーや聴衆からの理解と賛同を得た。今後の J A S S 執筆の基本方針とし位置付けられる。</p> <p>委員会 HP アドレス：なし</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>設置当初は、建築材料・施工の分野におけるリサイクル問題について、リサイクル関連技術のデータベース化、リサイクル可能な材料・構法の検討など、全般について総合的な整理・体系化を目的としてスタートした。しかしその後の検討の結果、材料施工委員会としての最大の成果物である JASS においても、今後は環境問題は不可避であることから、JASS 等の規定に環境配慮事項を盛り込む際の基本方針、共通事項についてけんとうすることになった。結果は上記の通りであり、十分な成果が得られた。</p>
その他評価すべき事項	このテーマは平成 15(2003)年度の日本建築学会大会・研究協議会のテーマとして取上げられたので、研究協議会の実施に際しては、当委員会が実質作業を担当した。